

プロジェクト名：農業農村開発に係る研修ニーズ調査
(調査期間：2003年4月～0.5ヵ月、担当業務：農業、野菜栽培)

調査背景

ソ連邦の崩壊後の旧 CIS 諸国の支援の一環として、日本政府は中央アジア 5 ヶ国に対し各国年間 100 名、この地域全体で年間 500 名の研修員の受け入れを実施した。この中で、タジキスタン国に対しては 1999 年から 5 カ年で 500 名の研修員の受け入れを行い、筑波国際センターでは 1999 年から国別研修コース「野菜栽培コース」を実施した。これに関連して、中央アジア諸国の農業分野における研修ニーズ調査を行うと共に、本コースのフォローアップ調査を実施した。

調査概要

ウズベキスタン、タジキスタンにおける今後の農業分野の研修ニーズ調査、またタジキスタンでは帰国研修員との意見交換、フォローアップの方法について協議を行った。帰国研修員からは本邦研修の高い評価を得ると共に、研修で入手したテキスト、教本・資料が広く活用されていた。また、セミナー等の実施による継続的な支援の要請が出された。研修ニーズの調査では、水利組合がほとんど組織されていない状況から、水利組合育成・水管理分野の研修、農業普及技術者育成、稲作技術分野がウズベキスタン、タジキスタン両国の共通課題として出され、タジキスタンでは果樹・畜産分野での新たな協力の希望が出された。

担当事項

- 対象国における農業・水利・普及活動状況の聞き取り調査。
- 帰国研修員の活動状況と問題点の把握、今後の Follow-up ニーズ調査。
- 野菜栽培、タジキスタン特設研修実施内容に関するセミナーの実施。
- 今後の研修ニーズの把握、支援方法の検討。

